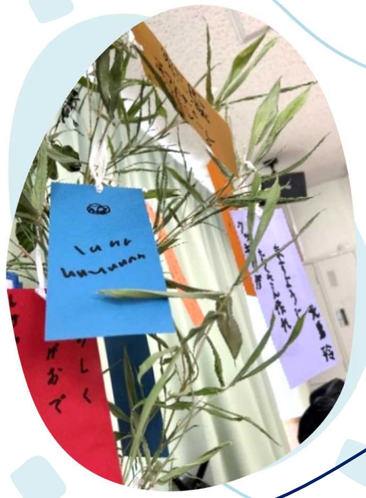
# みてみて みんなの作品展

## 【そらまめ・夏の作品】

会話から利用者の気持ちを引き出し、
それぞれに想う願いを短冊に書き、
色とりどりの笹が出来上がりました。
もちろん、職員の願いも入っています。



## 【カカラ・夏の作品】

職員と一緒に好きな色を選んだり、スズランテープを引き裂いたり、シールを貼ったりして、Mさんの好きな西瓜とTさんの好きなお皿を合体させたバージョンなど、５種類の織姫♡彦星七夕飾りを作りました。

★ワタル君のまちがいさがしはお休みです★

保険　自動車・火災　ガン・医療・生命保険　のことは
東京海上日動・東京海上日動あんしん生命保険代理店
（株）ディ・エフ・ピー提携代理店
TEL. 072-771-7277
FAX. 072-771-7278
（株）ティ・エフピー提携代理店は
社会福祉法人つむぎ福祉会の運動
を応援しています！
お気軽にご相談下さい!!

つむぎ福祉会ホームページ
http://www.tsumugigroup.net

### ◇◆ちいさな家から◆◇

先日、音楽祭に行きました。出演者の紹介時に、コロナ禍で活動できずに解散していたバンドが、この日のために再結成して出演しているとの逸話を聞きました。コロナ禍のなか、エッセンシャルワーカーという言葉が注目されましたが、その陰に自分達の活動がエッセンシャル(欠かすことができないもの)ではないのだと感じてしまった人達も沢山いたのではないかと想像しました。

困難を乗り越えたこともあってか、バンドの演奏は大盛り上がり、観客がステージ前に集まって、音楽に合わせて踊りだすという盛況ぶりで、その様子はコロナ禍のなかで抑えていたものがあふれ出した瞬間を強く印象づけました。

音楽祭に参加し、生きていくためにエッセンシャルなことは、本当はもっと沢山あったんだと感じるようになりました。この夏はそのことを思い出す機会が増えそうです。

（塩釜　雄気）

2023年7･8･9月 №99 編集･発行 社会福祉法人つむぎ福祉会　編集者 中谷路子　発行者 石井 守
〒546-0031 大阪市東住吉区田辺6-4-1 TEL.06-6625-8253 FAX.06-6625-8257

つむぎ福祉会のロゴは綿を紡ぐさまをイメージすると同時に 笑顔を表しています

# つむぐ

社会福祉法人
つむぎ福祉会

2023年7･8･9月号 №. 99

## 七夕にお願いを

笹からみんなで手作り！
すてきな七夕の完成です♪

（ポンチセぴりか・第２ぴりか作業所）

## もくじ

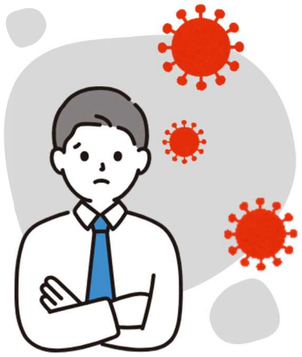
1. 七夕にお願いを
2. 主張：新型コロナの爪痕
今なお残る危機的状況
3. リレートーク ポプラ保育園
4. 5. ２類から５類へ アフターコロナのいま
6. 社会福祉事業のあり方 障がい分野
職員不足・利用者の重度化高齢化
7. ふんわりやさしいオープンダイアローグ №4
8. みんなの作品展（そらまめ・カカラ） 編集後記
別刷 すきつながり「ゲーム」

# 新型コロナの爪痕
# 今なお残る危機的状況

生活支援センターコットン　所長　柴田哲也

2023年5月8日より、新型コロナウィルスが5類に分類され、世間ではマスク着用などの感染対策が自己判断となり、コロナ前の日常が戻りつつあるようにみえますが、障がい福祉の事業所が受けた影響は大きく、まだ続いています。

4，5面で法人内事業所の5類に移行後の活動について報告しており、少しずつ明るい話題もでてきていますが、障がいの重い方や高齢の方にとって、まだまだ予断を許さない状況です。今夏に第9波が心配される中で、法人内の事業所に残る影響について考えてみたいと思います。



## ヘルパー事業では

移動支援が最も打撃を受けました。不要不急の外出を控える自粛要請で外出自体が制限される中、ガイドヘルパーの仕事もなくなり、ヘルパーが離れていってしまいました。コロナ前には39人いた登録ヘルパーも、現在14人にまで減少しています。外出の制限がなくなった今でもヘルパー不足のため回復の見込みがたっていません。

コロナ前（2019年）のサービス提供は月平均323件で、延べ1383時間、1件当たり4．3時間でした。5類に変更時点（2023年5月）では、サービス提供は月211件で延べ582時間、1件当たり2．8時間となっています。月当たりの提供件数は約3分の2ですが、提供時間は半分以下まで減少しており、同じヘルパーが短時間のサービスを細切れに提供するという苦肉の策で対応しています。現状では、遠出や1日ゆっくり外出するような希望には応えられていません。

## 通所施設では

コロナ禍で複数通所されている方の中には、通所先を1か所に絞ったり、高齢者施設に入所されている利用者は外出もほとんどできず、通所することも今なお禁止されている状態が続いています。通所が困難な利用者に向けては、適切な支援やサービスなど、どんなことができるのか引き続き考えていきたいと思います。

感染対策を講じながらの支援は知恵を出し合いながら継続しておりますが、職員への負荷は蓄積しています。

## グループホームでは

感染者が発生した時、最も対応が困難になるのがグループホームです。

グループホームは利用者にとっては家です。共同生活を送る中では感染者が発生すると、ほとんどの場合濃厚接触者となります。5類になっても高齢者や基礎疾患のある利用者が住むグループホームでは、これまでと同様の感染対策が必要です。隔離や個別対応など、人員を必要とするケースがほとんどで、現場対応に苦慮します。

先日、高齢者施設で生活していた48歳女性の利用者が、つむぎ福祉会のグループホームに入居することになりました。コロナ禍の3年間、通所もできずに施設にこもりっきりだった憂鬱な毎日から解放され、今はグループホームから生活介護カカラに毎日通所できるようになりました。

利用者も支援者も、ほっとできた瞬間でした。

## 人材難について

新型コロナ以前から人材難が叫ばれてきました。福祉業界のみならず、サービス業や飲食業、小売業、建設業など、「人」が支えている仕事は軒並み人手不足となっています。

新型コロナが残した爪痕は、福祉サービスの提供の根幹である人材に大きな打撃を与えました。外国人雇用や介護ロボットの導入など、つむぎ福祉会でも様々な対策を検討しなければと考えていますが、現状では多様な利用者の支援に対して有効な手立てにはなっていません。

まずは、今働いている職員を大切にし、キャリアを積み重ね、施設やサービスの質を上げながら、利用者にも職員にも選ばれる法人（施設）を目指していきたいと思います。



## ふんわりやさしいオープンダイアローグまんが

2023 年 1･2･3 月号（ №97）のまんがのつづきです。びーさんのお話をきいた、しろさんとぺこさん。しろさんとぺこさんの2人でリフレクティングを行います。

### <No.4 リフレクティング①>

リフレクティングがされている間、話し手はリフレクティング中の会話には入らずに話を聞くだけに徹します。そうすることで、すぐに返答しなくて良くなり、ゆっくり自分の考えを深めていくことができます。

# 社会福祉事業のあり方
## 障がい分野

職員不足･利用者の高齢化重度化に
対応するために
～ICT化･介護ロボット導入について考える～

**■深刻な人材不足を解決できるか!?**

障がい福祉の事業所は、コロナ禍を経て人材不足が恒常的な課題となっている。また、生活介護事業、グループホームでは、利用者の高齢化や重度化に伴い、排せつ、移乗、食事介助などの比重が増え、現場の職員の負担は増大している。人材不足を打開する目的で、国の施策としてICT補助金が介護分野で始まったが、それに続いて障がい分野でも、介護ロボット・ICT活用が取り上げられている。

**■つむぎ福祉会でのICTの取組み**

当法人では情報共有のために、日々の支援記録や事故ヒヤリハット、苦情などの情報を**クラウド上で管理するシステムを2012年から順次導入**し、障がい分野の事業所間で、利用者の情報を共有できるようにしている。

**■ロボット導入検討で課題発見**

生活介護カカラで、女性や高齢の職員でも介助ができるようにするために、令和５年度介護ロボット・ICT化補助金の申請を検討し、移乗をサポートする介護ロボット（装着型、非装着型）を何種類か試してみた。試した結果、施設規模、障がい種別など考慮して、導入が難しいという結論にいたった。理由は、**①利用者が理解できず、恐怖心があるため、重度の知的障がいの方には適さない。②装着に時間がかかり、対応に間に合わない。③利用者個別に対応が異なる、**などであった。

**ロボット導入を検討した事業所の状況**

| 職員 | GH(正･パート) | カカラ(正･パート) |
|---|---|---|
| 職員男女比 | 男 36:女 44 | 男 11:女 17 |
| 職員平均年齢 | 51歳 | 48.5歳 |
| 利用者 | GH | カカラ単独利用 |
| 障がい支援区分 | 区分5,6 39% | 区分5,6 84% |
| 利用者年齢 | 51歳以上 47% | 51歳以上 31% |

**■ICT化推進のためには職員間の合意形成が重要**

ある勉強会で、業者からベッドのマットの下にセンサーを入れて、就寝中の利用者のバイタルを自動で管理する仕組みの説明があった。夜間一人で利用者の対応にあたるホームのキーパーの業務の負担軽減につながるのではないかと感じた。

一般的に導入したが活用できずにいる事業所が多いと聞く。「補助金があるから」と導入を急いだ結果であろう。介護ロボットや、ICTの活用は、**導入がゴールではなく**、活用して職員の負担軽減と利用者の快適な生活を実現することがゴールでないといけない。そのためには、**課題の整理と、導入に向けた職員間の話し合いが重要**である。

**■ロボット活用で障がい者の働く場を拡大！**

**ぴりか工場**では、現在金属関係の作業が主流になっており、**重量のある部品の運搬が職員・利用者の負担**になっている。いくつになっても働き続けたいという利用者の願いに応えるために、介護だけでなく、障がい者の働く場の拡大にも**ICTやロボットの導入が活用できるのではないかと思う。**

ロボットを活用して介助（カカラ）

**ICTって何？　介護現場のICTとは？**

ICT（アイシーティー）とは、「Information and Communication Technology」の略称です。日本語では、「情報通信技術」と訳されます。

介護等の現場のICT活用では、日々の記録業務の負担を軽減するために、スマホやタブレットで音声入力したり、バイタルチェックした情報を自動で記録したり、IT技術を使って、健康管理、安否確認、情報共有を行い、本来の介護や支援業務を充実させていこうと進められています。



# リレートーク　～ポプラ保育園～

「つむぎ福祉会ってどんな法人？」もっと知ってもらうため、１人の職員を通して、事業所の紹介をします☆今回紹介するのは、大阪市西区にあるポプラ保育園です。都会の高層マンションが立ち並ぶ中、近くにはうつぼ公園があり、散歩にでると近所の方とご挨拶を通し、地域のつながりを感じる場所でもあります。

園長
山田　和美さん

歌ったり、踊ったり、追いかけ合ったり、何かになりきってみたり…こどもと一緒にあそぶことが「仕事」になるなんて、本当に恵まれています。もちろん、大変なこともたくさんありますが、それを上回るものがあるから、30年以上この仕事が続けられたのだと思います。特に、ポプラに入職してからは研修会に参加する機会がたくさんあり発達に関する知識が深まると、こどもの行動の意味がよくわかり、それがとても面白くなりました。こどもが「なぜかな？」「こうしたらどうなるかな？？」と自分の周りの世界に働きかけていく姿や、葛藤をくぐりぬけ、成長の節目を乗り越える瞬間、前進し続けるエネルギーに私自身が大いに勇気づけられています。この気持ちを他の職員や保護者のみなさんたちと共有したいと思い、こどもの話をたくさんするように努めています。これからも、保育の楽しさを周りの人たちに伝えていきたいと思っています。

**園長先生ってこんな人　！？**

こどものこの時期ならではの経験や体験を積み重ねていくことが大切！こども時代をゆったりたっぷり謳歌できるよう、常に見守ってくれています★そして、地域や職員、保護者の方とも気持ちを一つにし、一緒に手をつないでいける保育園であり続けたいと願ってくれています！

いつも笑顔♪
保育が好き！があふれている♡
ほめて、モチベーションをあげてくれる！
お母さんみたいな人♬
アイデア豊富！

６月の職員会議の風景

保育園での今後の活動やこどもの様子など保育士間で共有し、話し合いをしています。６月は理事長にも参加して頂きました。

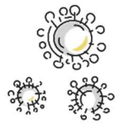
これから散歩に出るこどもたちの姿を見守ってくれています☆

# ―2類から5類へ―
# アフターコロナのいま

**5月8日** より新型コロナ感染症の対応が2類から5類に変わったことにより、感染症対策も変化があり、街中でもマスクなしで歩いている人をよく見かけるようになりました。法人内の事業所でも、感染対策をとりながらではありますが、少しずつ、活動を再開しています。しかし、感染者数は増えており、身近なところでも感染者が出ています。

法人内でも重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある利用者が多く、活動の拡大に躊躇する事業所があるのも事実です。

今号と次号ではアフターコロナの活動についてお伝えします。今号は、活動を再開した3事業所、次号では、そらまめ作業所、重症化リスクの高い利用者が多い生活介護カカラ、コロナ禍で特に影響が大きかった生活支援センターコットンについて報告したいと思います。



## ―2023年5月10日―
## 住之江公園へ遠足に

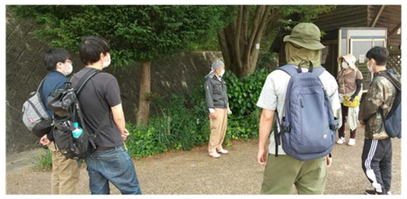
コロナ禍での遠足は人との接触を避けるため、密になる電車やバスなど公共交通機関を使っての移動を避けていましたが、今年の5月8日以降の遠足では電車を使って行くことができました。

もちろん、手洗いや消毒は引き続き行い、感染症の予防を行いながらですが、子どもたちにとって電車に乗っていく遠足はとても楽しみの一つとなったようでした。

## ハイキングを兼ねて、職場見学へ！

中河内地域若者サポートステーションでは今年度、セミナー開催回数と職場見学・体験の受け入れ先が増加しています。また、コロナ禍の制限のなかでは開催できなかったユニークな職場見学会を初めて開催することもできました。

職場見学先が大阪府民の森であったことから、見学先までの道中を歩いていくことで、ハイキングも兼ねてしまおうという取組でした。



運動不足の方にも体力づくりの一環として参加してもらい、自然のなかを歩くうちに参加した方達に一体感が生まれ、会話が弾む楽しい道中になりました。

## 地域交流の再開
## ―清掃活動―

「清掃活動」でも
みんな**楽しみ**ながら、
**積極的**に取り組んでいます。

コロナ禍も落ち着きはじめ、再開した活動の一つが「地域交流」を目的とした清掃活動です。

清掃活動中、地域の方々から「何やってるの？」と気にかけていただいたり、「ありがとう！」や「おつかれさん！」と嬉しい声をかけていただきました！

このような声かけに、利用者のみんなも嬉しそうな様子でした。

コロナ禍になり地域との交流が減ってしまっていましたが、今後も定期的におこない、ぴりかをもっと知ってもらいたいと思います。

### 各事業所の再開された活動の一部を紹介しました。

他にもみんなの楽しめることが少しずつ戻ってきています。まだまだ感染対策に力を入れる日々が続き、今まで**“当たり前”**だったことがすべて元通りになったわけではありません。しかし、今できることを考えながら、みんなが楽しみ、笑顔あふれる活動を今後も取り入れていきたいと考えています。